

2月8日頃の大雪について

説明資料は、2月6日11時現在で入手可能な予測資料を用いて作成した説明資料です。
最新の気象情報は、気象台ホームページ等から確認ください。

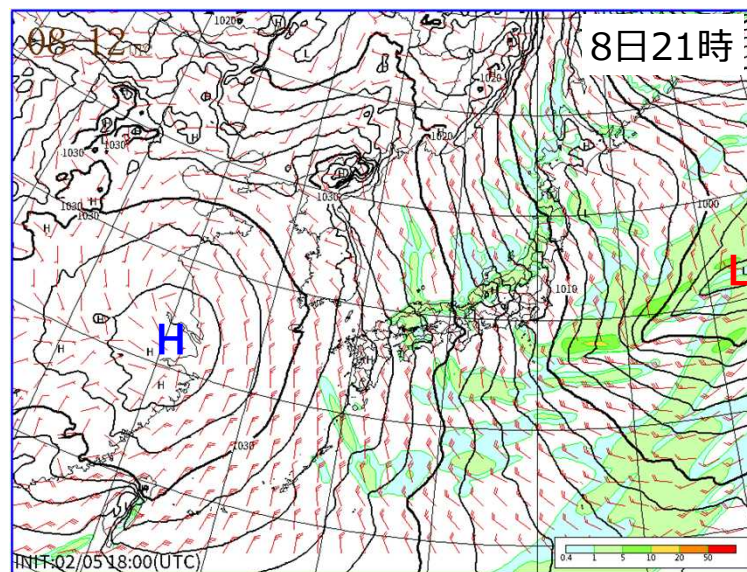
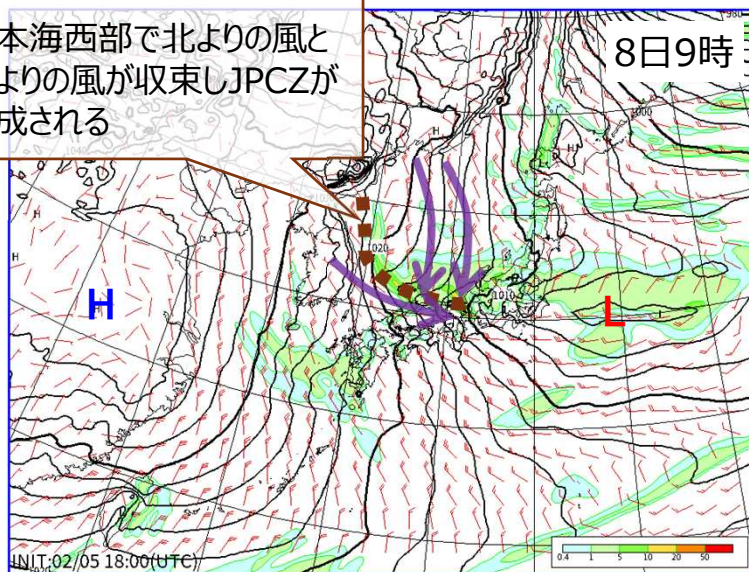


気象庁 京都地方気象台

- JPCZ(日本海寒帯気団収束帯)及び上空の寒気と北風の影響で、8日日中を中心に、降雪量が短時間に急激に増加するおそれあり。
- 8日未明から9日明け方にかけて、京都府の広い範囲で注意報級の大雪となる見込み。
- 雪雲が予想以上に発達したり、JPCZの南下が遅かったりした場合には、警報級の大雪となる可能性あり。積雪や路面の凍結による交通障害に十分注意。

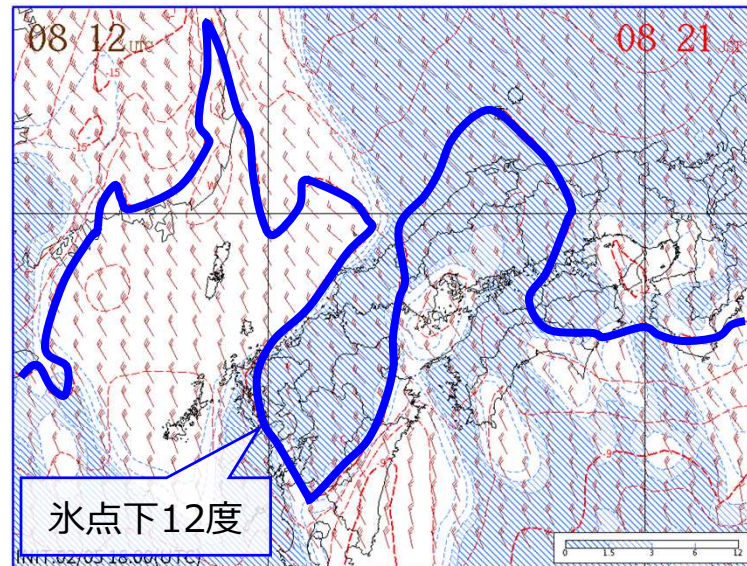
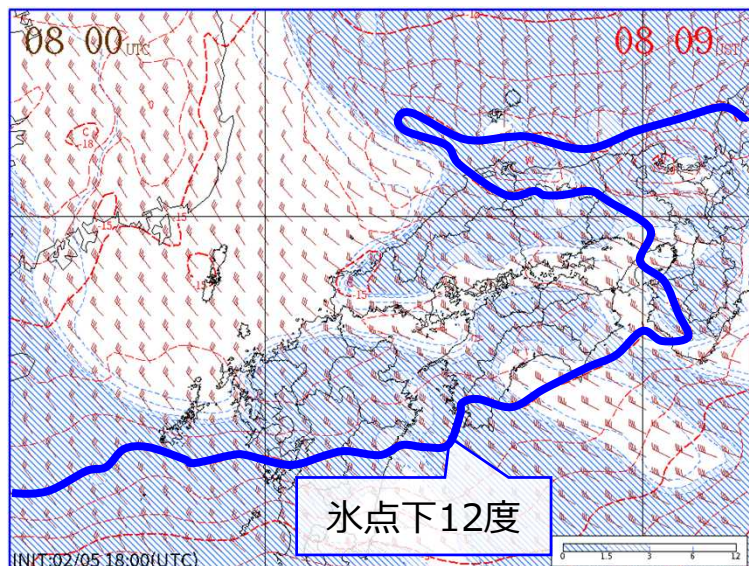
1月8日の気圧配置(上段)と上空約1500mの気温分布(下段)

日本海西部で北よりの風と西よりの風が収束しJPCZが形成される



H : 高気圧
L : 低気圧

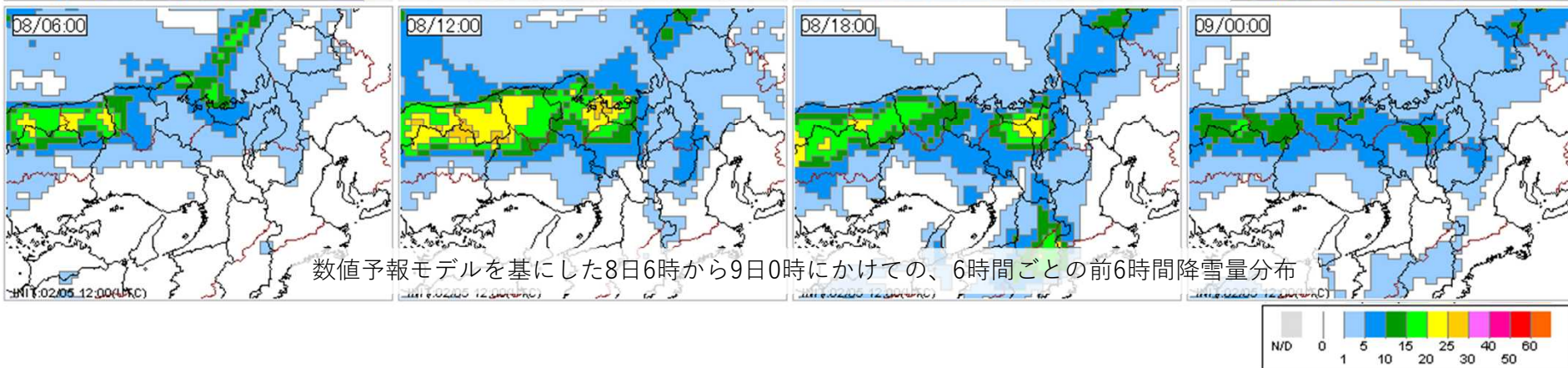
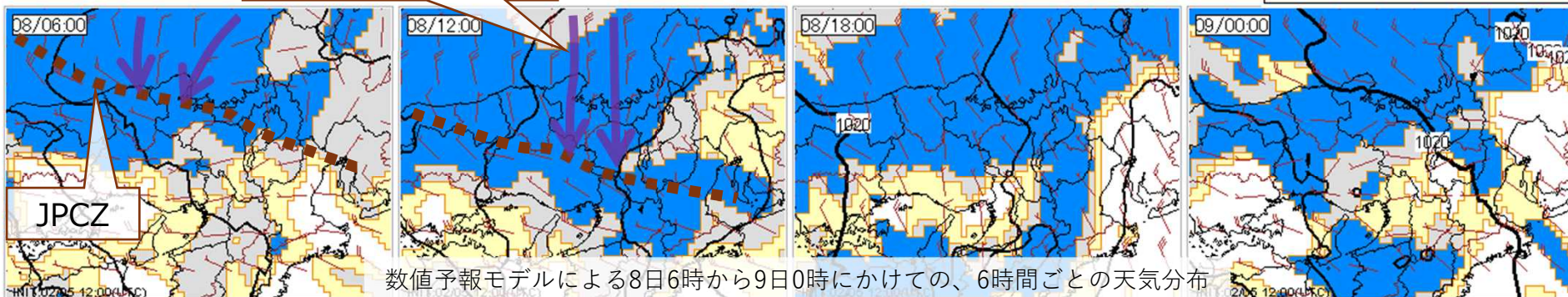
緑色領域 :
前3時間降水量
分布



- 8日は、近畿地方の上空約1500mに氷点下12度以下の、今冬一番の寒気が流入し、強い冬型の気圧配置となる。
- JPCZが8日日中、京都府を南下。また、JPCZの北側では明瞭な北風が吹く予想となっている。

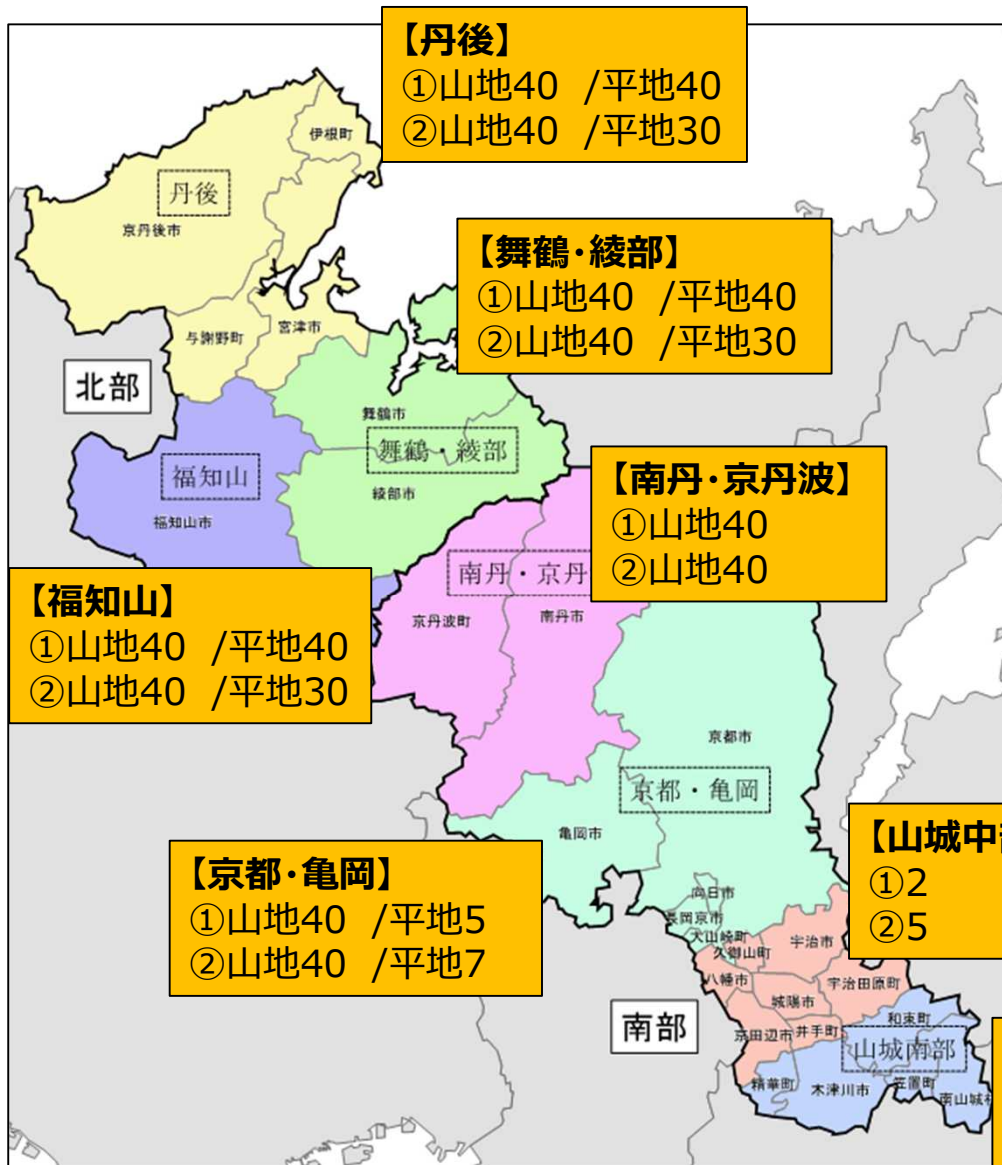
8日6時から9日0時にかけての、天気とJPCZの動向(上段)と6時間降雪量分布(下段)

北風が明瞭なため、雪雲が南部に流入しやすい



- JPCZが8日日中に京都府を南下する。また、JPCZの北側では強めの北風が吹く予想となっている。このため、JPCZの南下時と南下直後には、発達した雪雲が京都府に流れ込んで、降雪量が短時間に急激に増加するおそれがある。
- 発達した雪雲が京都・亀岡以南へ流れ込みやすい状況となる見込み。8日日中を中心に、8日未明から9日明け方にかけて、南部の平地も含めた京都府の広い範囲で注意報級の大雪となるおそれがある。
- 雪雲が予想以上に発達したり、JPCZの南下が遅い場合には、8日は警報級の大雪となる可能性もある。

24時間降雪量



市町村等をまとめた地域
24時間降雪量（多い所）

【期間】

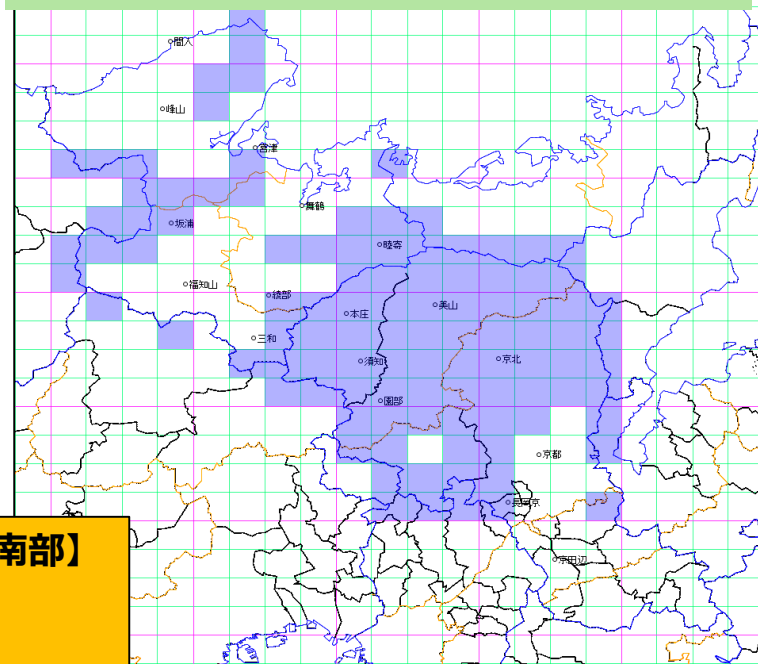
①7日12時～8日12時

②8日12時～9日12時

（単位：cm）

※山城中部和山城南部は山地と平地の区別なし

紫色の領域が山地（標高200m以上）



早期注意情報（6日11時発表）

京都府の早期注意情報（警報級の可能性）

2026年02月06日11時 京都地方気象台 発表

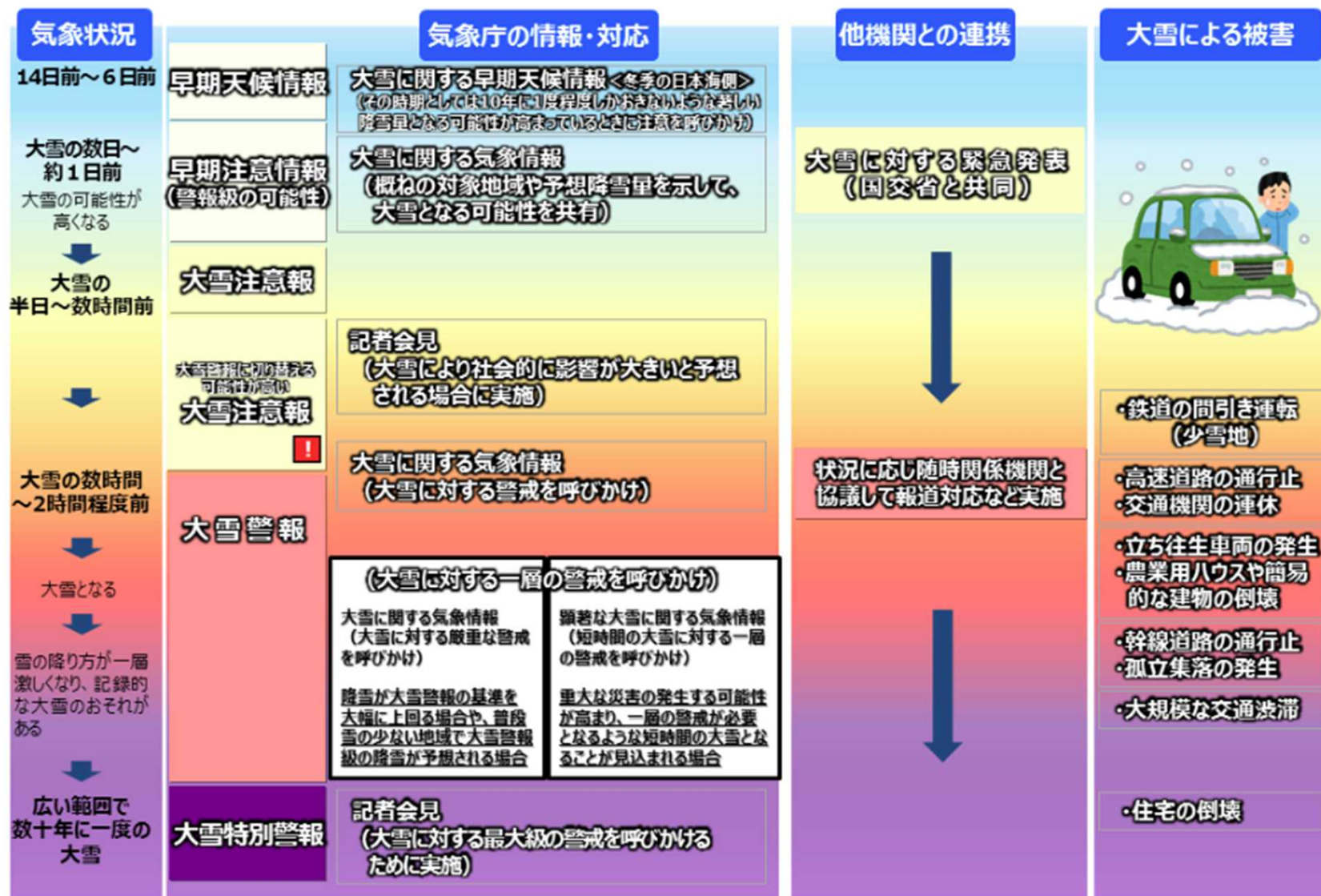
南部では、7日までの期間内に【高】及び【中】はない。今後の情報に留意。

北部では、7日までの期間内に【高】及び【中】はない。今後の情報に留意。

京都府南部		6日		7日			8日	9日	10日	11日
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1時間最大	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下				
	3時間最大	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下				
	24時間最大			50以下						
大雪	警報級の可能性	-	-	-	-	-	【中】	-	-	-
	6時間最大	0	1	3	4	6				
	24時間最大			10から20						
暴風(雪)	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大風速	9以下	9以下	9以下	9以下	9以下				
京都府北部		6日		7日			8日	9日	10日	11日
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1時間最大	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下				
	3時間最大	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下				
	24時間最大			50以下						
大雪	警報級の可能性	-	-	-	-	-	【中】	-	-	-
	6時間最大	下記以外	0	0	1	2	5			
		山地	0	1	3	3	6			
	24時間最大			10から20						
暴風(雪)	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大風速	陸上	9以下	9以下	10	10	9以下			
		海上	10	10	13	13	10			
波浪	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	波高	3	3	3	3	3				
高潮	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-

■ 【高】 ■ 【中】

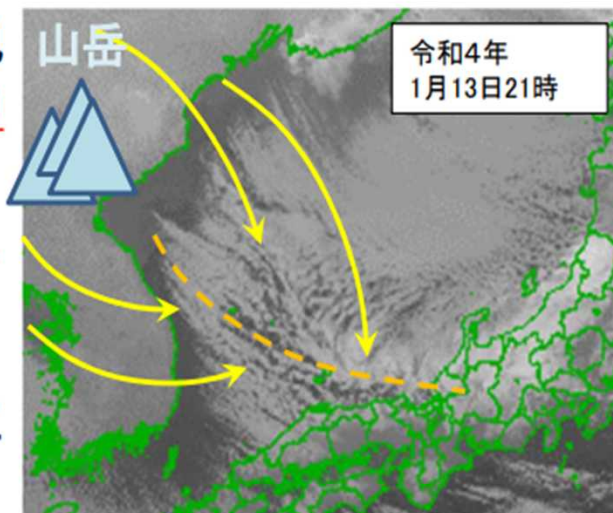
(参考) 大雪のおそれに応じて段階的に発表される気象情報と対応



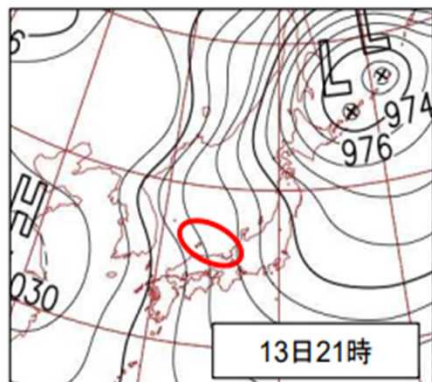
(参考)JPCZ:日本海寒帯気団収束帯

JPCZ (Japan sea Polar airmass Convergence Zone: 日本海寒帯気団収束帯)

- 冬型の気圧配置時に大陸の山岳を迂回した季節風が日本海で合流すると、日本海で帯状の雪雲(JPCZ)が発達する。
- JPCZが同じ地域に流れ込み続けると、短時間で顕著な大雪となることがある。
- 短時間に顕著な大雪が降ると、道路の除雪が追いつかず、立往生が多発し、大規模な交通障害を引き起こすことがある。

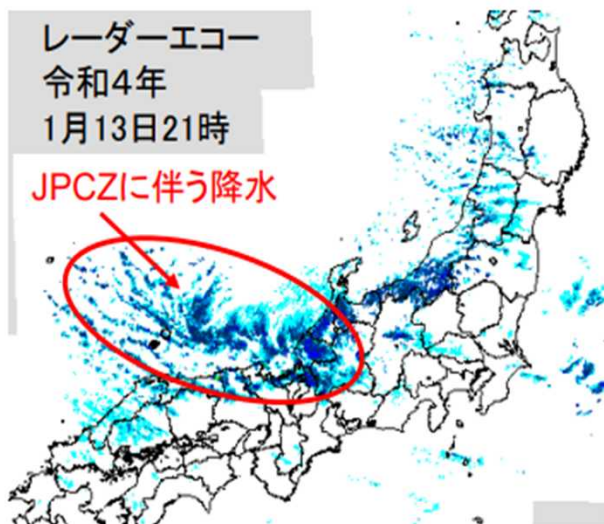


令和4年1月13日の事例



レーダーエコー
令和4年
1月13日21時

JPCZに伴う降水



立ち往生が発生した1月13日の小矢部市の様子(富山河川国道事務所提供)